

## 安全データシート

According to JIS Z 7253:2012  
改訂日 2018-9-20  
版 2.01

## 1. 化学品及び会社情報

製品名	メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル
製品コード	085-03892,089-03895
CAS No	923-26-2
化学式	CH <sub>2</sub> :C(CH <sub>3</sub> )COOCH <sub>2</sub> CH(OH)CH <sub>3</sub>
製造者	富士フィルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 Tel: 06-6203-3741 Fax: 06-6201-5964
供給者	富士フィルム和光純薬株式会社 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 電話:06-6203-3741 FAX番号:06-6203-2029
緊急連絡電話番号 推奨用途及び使用上の制限 社名変更のお知らせ	試薬営業本部西日本営業部 06-6203-3741 試薬営業本部東日本営業部 03-3270-8571 試験研究用 2018年4月1日より、和光純薬工業株式会社から富士フィルム和光純薬株式会社へ社名を変更いたしました。

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

## 物質又は混合物の分類

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性  
皮膚感作性

区分2A  
区分1

## 絵表示



## 注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

H319 - 強い眼刺激をおこす  
H317 - アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

## 注意書き(安全対策)

- ・取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・粉じん、蒸気、ガス、ミスト、フューム、スプレーの吸入を避けること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出してはいけません。

## 注意書き(応急措置)

- ・眼に入った場合、数分間目を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。
- ・眼の刺激が続く場合、医師の治療を受けること。
- ・皮膚に付着した場合、多量の水と洗剤で洗浄する。
- ・皮膚に炎症や発疹が起きた場合、医師の治療を受けてください。
- ・再使用前に汚染された衣服を洗う。

## 注意書き(保管)

- ・非該当

## 注意書き(廃棄)

- ・内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

## その他

ほかの危険有害性

情報なし

## 3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物

混合物

化学式

CH<sub>2</sub>:C(CH<sub>3</sub>)COOCH<sub>2</sub>CH(OH)CH<sub>3</sub>

化学名	重量パーセント	分子量	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS番号
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	95.0	144.17	(2)-958,(2)-1044	(2)-958,(2)-1044	923-26-2

不純物または安定化添加剤

[安定剤] p-メトキシフェノール 約 0.03 %

## 4. 応急措置

## 吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

## 皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

## 眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

## 飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

## 応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

## 5. 火災時の措置

## 消火剤

水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、泡、粉末消火剤、砂

## 使ってはならない消火剤

利用可能な情報はない

## 特有の消火方法

利用可能な情報はない

## 火災時の特有危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

## 消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

## 6. 漏出時の措置

## 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

## 環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

#### 回収、中和

利用可能な情報はない

#### 二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

#### 注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

#### 安全取扱注意事項

静電気放電(有機物の蒸気を引火させる)を避けるために必要な措置をとる。個人用保護具を着用すること。皮膚、眼、衣服との接触を避ける。

### 保管

#### 安全な保管条件

##### 保管条件

容器は遮光し、換気の良いなるべく涼しい場所に密閉して保管する。

##### 安全な容器包装材料

ガラス

#### 混触禁止物質

強酸化剤

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

### ばく露限界

この供給された製品は地域の特定取締機関によって発行された職業ばく露限界値のある有害危険物を含有していない。

### 保護具

#### 呼吸器用保護具

保護マスク

#### 手の保護具

保護手袋

#### 眼の保護具

側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)

#### 皮膚及び身体の保護具

長袖作業衣

### 適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 形状

#### 色

無色～ほとんど無色

#### 濁度

澄明

#### 性状

液体

### 臭い

データなし

### pH

データなし

### 融点・凝固点

データなし

### 沸点、初留点及び沸騰範囲

データなし

### 引火点

104 °C

### 蒸発速度

データなし

### 燃焼性(固体、ガス)

データなし

## 燃焼又は爆発範囲

上限:	データなし
下限:	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	4.5
比重・密度	1.029 - 1.035 g/ml
溶解性	水, エタノール および アセトン : 溶ける。
n-オクタン/水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度(粘性率)	データなし
動粘度	データなし

## 10. 安定性及び反応性

## 安定性

安定性	光により変質するおそれがある。
反応性	データなし
危険有害反応可能性	
通常処理ではなし。	
避けるべき条件	高温と直射日光, 熱, 炎, 火花, 静電気, スパーク
混触危険物質	
強酸化剤	
危険有害な分解生成物	
一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO <sub>2</sub> )	

## 11. 有害性情報

## 急性毒性

化学名	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	ラットのLD50値は>2000 mg/kg bwで死亡例なし(OECD TG 401; GLP)(厚労省報告英文要旨(Access on Aug. 2011))との報告に基づき、区分外とした。	データなし。	GHSの定義における液体である。

化学名	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	データなし。	データなし。	データなし。

## 皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	データなし。

## 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	本物質80%を含む異性体混合物の原液1滴をウサギ3匹の眼に適用し、1時間以内に軽度の刺激および結膜炎、角膜炎および角膜混濁を生じ、翌日に化膿性結膜炎と虹彩炎が見られた。7日間の観察期間中に2匹でやや改善が見られたが、角膜炎と角膜混濁は持続した(SIDS(2007))。この結果から、回復には7日間以上要すると考えられ、またEC分類でR36である(EC-JRC(ESIS)(Access on July. 2011))ことを踏まえ、区分2Aとした。

## 呼吸器感作性又は皮膚感作性

化学名	呼吸器および皮膚感作性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	呼吸器感作性: データなし。 皮膚感作性: フィンランド労働衛生研究所によるアクリル化合物の皮膚疾患調査の概説によると、1990年代に職業ばく露を受けた患者124人中、15人が本物質に陽

	性反応を示した(SIDS (2007))。一方、アクリル化合物2成分を含む接着剤により感作された38歳女性患者が本物質のパッチテストでも陽性反応を示した(SIDS (2007))。また、職業皮膚疾患が疑われた93人の歯科技術者の調査では、50%がアレルギー性接触皮膚炎と診断され、16人が本物質に陽性反応を示した(SIDS (2007))。さらに、職業ばく露では1990年代に1619人の患者が職業性接触皮膚炎を疑われ、アクリル樹脂による感作を受けた患者9人中2人が本物質のパッチテストで陽性反応を示した(SIDS (2007))。以上の報告を含め、本物質または本物質を含むアクリル化合物によるアレルギー性皮膚炎の発現を示す疫学的調査報告または症例報告が多数ある(DFGMAK-Doc.16 (2001), SIDS (2007))ことから区分1とした。なお、EU分類はR43(EC-JRC(ESIS) (Access on July. 2011))であり、アクリル化合物としては、アレルギー物質としてContact Dermatitis (Frosch)に掲載(Contact Dermatitis (4th Ed. (2006)), List1相当)されている。
--	---

**生殖細胞変異原性**

化学名	変異原性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	in vivo試験データがないので分類できない。なお、in vitro試験として、エームス試験(OECD TG 471及び472, GLP)で陰性(厚労省報告(Access on Aug. 2011))の一方、チャイニーズハムスターの培養細胞(CHL1U)を用いた染色体異常試験(OECD TG 473, GLP)(厚労省報告(Access on Aug. 2011))及びマウスリンパ腫L5178Y細胞を用いた遺伝子突然変異試験(SIDS(2007))では陽性が報告されている。

**発がん性**

化学名	発がん性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	データなし。

**生殖毒性**

化学名	生殖毒性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	ラットの経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG 422, GLP)において、交尾率、受胎雌数、妊娠期間、受胎率、着床率、出産率などの性機能及び生殖能に試験物質投与の影響はみられず、出産児数、分娩率、新生児数、出生率、哺育4日目生存率なども対照群との間に差はなく、新生児に及ぼす影響もみられなかった(厚労省報告英文要旨(Access on Aug. 2011))。しかし、催奇形性を含む児の発生に及ぼす影響に関してデータ不十分であり、分類できないとした。

**特定標的臓器毒性(単回ばく露)**

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	ラットの単回経口投与毒性試験(OECD TG401; GLP)の結果、2000 mg/kg投与群の雄で投与直後に流涎が認められたのみで、500および1000 mg/kg投与群では雌雄とも異常はなく、剖検でも各投与群の雌雄とも異常はみられなかった(厚労省報告(Access on Aug. 2011))と報告され、経口では区分外相当となるが、他経路(経皮、吸入)による影響はデータがなく不明のため、特定標的臓器毒性(単回ばく露)の分類としては「分類できない」とした。

**特定標的臓器毒性(反復ばく露)**

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	ラットに経口投与による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験(OECD TG 422, GLP)において、1000 mg/kg投与群で雄2例、雌1例が死亡し、流涎、自発運動能の低下および眼瞼下垂の症状が見られ、無影響量は区分2のガイダンス値範囲(10-100 mg/kg bw/day)を超える300 mg/kg bw/day(90日補正: 雄163, 雌123 mg/kg bw/day)であった(厚労省報告英文要旨(Access on Aug. 2011))との報告から、経口では区分外に相当するが、他経路(経皮、吸入)による影響はデータがなく不明のため、特定標的臓器毒性(反復ばく露)の分類としては「分類できない」とした。

**吸引性呼吸器有害性**

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	データなし。

**12. 環境影響情報**

生態毒性 利用可能な情報はない

#### その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
メタクリル酸2-ヒドロキシプロピル	データなし	データなし

残留性・分解性 利用可能な情報はない  
 生体蓄積性 利用可能な情報はない  
 土壌中の移動性 利用可能な情報はない  
 オゾン層への有害性 利用可能な情報はない

### 13. 廃棄上の注意

#### 残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

#### 汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

### 14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上) 規制されていない。

国連番号

-

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

海洋汚染物質

非該当

IMDG(海上)

規制されていない。

国連番号

-

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

海洋汚染物質

非該当

MARPOL73/78やIBCコードに則つ

利用可能な情報はない

たバルクの輸送

IATA(航空)

規制されていない。

国連番号

-

品名

国連分類

副次危険性

容器等級

環境有害物質

非該当

### 15. 適用法令

#### 国際インベントリー

EINECS/ELINCS

収載

TSCA

収載

#### 国内法規

消防法

危険物第四類 第三石油類 危険等級Ⅲ

毒物及び劇物取締法

非該当

労働安全衛生法

非該当

危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当
PRTR法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

## 16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等 NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 <http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>  
IATA危険物規則書  
RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances  
中央労働災害防止協会 GHSモデルSDS情報  
有機合成化学辞典 (社) 有機合成化学協会 講談社サイエンティフィック  
化学大辞典 共立出版  
等

### 免責事項

このSDSはJIS Z 7253:2012に準拠しております。記載内容は通常の実取を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。

GHS分類はJIS Z7252(2014)に準拠している。\*JIS: 日本工業規格

### 製品についてのご案内

新社名へ切替を行う間、旧社名のラベル表示がある製品がお手元に届く場合がございます。

以上